

## 雑司が谷旧宣教師館だより

第13号

2000年1月1日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎ F A X (03)3985-4081



## 雑司が谷旧宣教師館特別公開事業終了

本年3月、東京都指定文化財「旧マッカーレブ邸」指定記念及び開館10周年を記念して、11月3日（祝）中庭でのオータムコンサート、6日（土）区内の近代建築をあるく、そして13日（土）文化講演会と東京文化財ウィークに参加した一連の雑司が谷旧宣教師館公開事業が終了しました。



## 【オータムコンサート】

東京音楽大学講師・中野真理さんを迎えてのフルートコンサートは、好天に恵まれ150人程の来館者がありました。「アベ・マリア」（パッパ）や「夢のあとに」（フォーレ）、そして教え子の甘粕広和さん（東京音楽大学4年）、壺地まりさん（同）を交えてのフルート三重奏の音色が、休日のひととき中庭を包んでくれました。この時の模様が11月6日（土）の朝、NHK だより首都圏「すてき旅」コーナーで紹介されました。

番組を見て来館された方々から、「今度コンサートはいつですか」「またやってください」とのご希望が多く寄せられています。当館主催のコンサートは現在未定ですが、毎年地元の方々が母の日に「花のガーデンコンサート」を催されています。今年で10回目、来年も5月の第2日曜日・母の日に開催予定ということです。（当館中庭、午後2時頃から）

## 【区内の近代建築を歩く】

文化女子大学生生活造形科教授である内田青蔵氏を講師に招いて、日本の近代建築史や文化財建造物に興味を持っている方々を対象に企画した「区内の近代建築をあるく」には約40名の方が参加しました。

区内に残る近代建築のうち、①当豊島区雑司が谷旧宣教師館、②自由学園明日館、③立教大学（本館・チャペル・校舎など）を今回の見学場所としました。

戦前の建造物のなかには、最近建築されたものには見られないような凝った意匠が見られたり、職人の「技」、「心意気」が活かされているものがあり、ふだん素人の目では気づかないこれらの部分について、講師の先生からスライドを用いてのガイダンスを受け、終了後に見学会を行いました。

自由学園明日館は平成9年5月、区内で初めて建造物として国の重要文化財の指定を受け、現在は「使い勝手の良い歴史的建造物」を目指して保存修理工事中でした。滅多に見ることの出来ない文化財復元工事に遭遇し、貴重な見学会となりました。

1874（明治7）年に東京築地居留地に開学した立教学校は、1903年に立教大学を設立し、1907年には池袋の地蔵大学用地を取得して移転が図られました。正面に時計台をもつ本館、右側に礼拝堂、左側に図書館が庭を囲んで「コ」の字型に配置され、その後方には学園生活に必要な食堂と寄宿舎が、中庭を囲んで同じく「コ」の字型に配置されています。これらは赤煉瓦のゴシック様式に、まとめあげられています。

このゴシック様式は、16世紀のイギリスで成立したチューダー様式というもので、20世紀初頭にイギリスやアメリカで再び流行し、日本では昭和初頭に盛んに用いられました。立教大学のこれらの建造物群は、日本におけるその先駆的役割を果たしました。



本館をぬく、「鈴懸のみち」を通過して西に向かうと簡素なコロニアルスタイルの立教大学校舎11・12号館が残されています。これは宣教師館として建てられ、外国人教師の住宅としても使われました。

## 参加者の声

### 【フルートコンサート】

♡思わず涙ぐんでしまうほど感動しました。(60代・女)

♡Tres bien! (60代・男)

♡館の室内にて拝聴させていただいておりました。ちょうどオルゴールの原理と同じく、1階の食堂ではフルートが本当に良く響いてうっとりとしています。(20代・女)

♡屋外での生演奏というのも気持ち良くてたまにはいいものです。(30代・男)

♡大変素晴らしい演奏でした。ただカメラのモータードライブは耳障りでした。(40代・男)

◆NHKの方から「ご迷惑をおかけします」と事前にお断りがありました。コンサート模様を是非紹介したいということで、出演者の了解を得ての取材でしたが、音楽を楽しみにいらした方にはご迷惑をおかけしましたことをお詫言いたします。

### 【区内の近代建築をあるく】

♡豊島区内の近代建築について理論と実際の手ほどきを受け、学ぶところが沢山ありました。くたぐたぐと質問にも丁寧に答えてくださり、普通入れないところにも入れ、大変幸せでした。このような企画を今後も続々催してください。越境入学者ですが、区境に住み、心は豊島区民です。(文京区・70代・男)

♡明日館を見たいということが受講の動機でしたが、内田先生の説明をいただいて3ヵ所の建築を興味深く細やかに観察出来て、とてもたのしい一日でした。(東池袋・50代・女)

◆【文化講演会】については次号で紹介します。

### 【旧宣教師館への要望】

♡信州にオープンした武井武雄美術館の所蔵作品をここでも展示してほしい。(20代・女)

◆童画家武井武雄(1894年～1983年)は大正2年に乗鶴宮下町の長善館に住み、翌年東京美術学校(現・東京芸術大学)に入学。大正7年より昭和20年の空襲で帰宅が失するまで27年階地獄に住みました。

絵本「コドモノクニ」の創刊号より子どものための絵を描き続け、童画の世界を築き上げました。武雄の長女である武井三春さんは、現在板橋に住んでおり、ここにも見学にお見えになりました。明るく色彩豊かな作品の数々を、いつかここで展示できたらと思っています。

## 花ごよみ

旧宣教師館の庭も新春を迎えました。落葉樹のクリの木は、すっかり葉を落として冬の装いになり、常緑樹のマリョウ・センリョウ・クロガネモチ・コトネアスター等が、青々とした葉に赤い実をつけて花のない季節にわずかな彩りを添えています。

昨秋、寄せ植え花壇にM氏より寄贈のフラワーランドバック(培養土と花の種(オダマキ他30種類)の入ったバック)を頂きました。もう春を待って顔を出し始めて居ります、どのような花が咲くのが楽しみです。ありがとうございました。今回は新春の庭を彩る「センリョウ」を紹介したいと思います。

### 「センリョウ」

科名 センリョウ科の常緑広葉小低木

花期 7月～8月

実熟期 12月～翌年2月頃まで

適地 耐湿な日向

樹高50～80cm。果実はマリョウと違って茎の丁部に集まってつき、赤熟します。その美しさで観賞価値が高いことから、マリョウ(万両)に対してセンリョウ(千両)の名がつけました。花は淡黄緑色で小さく、7～8月頃強い4重砂状花序をなして咲きます。

新春ののどかな一日、旧宣教師館を訪れて赤い実をつけて美しく輝いている、センリョウを眺めては如何でしょうか。(反り目記)



## —お知らせ—

### 平成11年度雑司が谷旧宣教師館防火訓練

都指定有形文化財である雑司が谷旧宣教師館を火災から守るとともに、見学者および地域住民の安全を図るため、毎年1月26日の文化財防火デーに合わせて防火訓練を行っております。今年も1月23日(日)午前

10時より、雑司が谷一丁目会婦人消防隊、豊島・目白両消防署、豊島消防団、目白警察署と共に「みんなて守ろう文化財」のキャッチフレーズで防火訓練を行います。見学者の皆様のご協力宜しくお願いたします。



### 【編集後記】

特別公開事業参加の皆さんから、貴重なご意見・ご感想を多数お寄せいただきました。ありがとうございます。玄関入口のアンケートにもご協力ください。出来るところから反映していく所存です。(文責 浜地)